

「よろしくね」と「ありがとう」の気持ち

北島町立北島中学校3年 新井 水稀

私にとって幼稚園は思い出の場所だ。優しい先生、楽しく遊んでくれる友達など、すてきな人達に恵まれた。みんなと過ごした日常は、今でもよく覚えている。

そんな忘れられないものとなった貴重な経験をした幼稚園が二〇一九年一〇月から、一部を除き制限付きで、利用費が無償化されていることを知った。そこでなぜ無償化することにしたのか、そして、そのお金はどこから支給されたもので賄われているのかということについて調べてみた。まず無償化された理由として最も大きなものは、少子高齢化対策だそうだ。そして無償化された分のお金は、増税された分の消費税で賄われているそうだ。この2つを知って特におどろいたのは、支払っていた消費税が、私より小さな子たちのためにも多く使われていたということだ。正直、増税され納めてはいたものの、「なぜ上げるんだろう」と思うだけで、使い所は知らなかった。中学生の私でもどこかで役に立っているというのが素直にうれしかった。

また、子どもに対し税金が使われているのは、保育園、幼稚園ばかりではない。小学校や中学校の義務教育中、さらにそれを終えた先にある高等学校にも税金があてられている。高校卒業時までに使われる税金が、一人あたりなんと一千万円をこえる都道府県もあるそうだ。いったいなぜ、みんなが納める大切なお金を、未成年の私たちに多く使ってもらえるのだろうか。それはきっと、学校に通っている、また今後通うことになる私たちは、自分だけでなく税金を納める大人の未来をも担っているからだと思う。学生のときは税金の助けを受け勉強をし、大人になったら過去の自分のような、未来を担う学生に期待と希望をこめて税を納める。こういった循環がつながっていることを考えて、暖かな気持ちで税を納め、あてられた分を使うことこそが、未来をつくっていくのではないだろうか。

よく大人が、

「学生時代の思い出は忘れられない。」

と言うのを耳にする。きっとその言葉は本当で、私も今までの幼稚園、小中学校での思い出も忘れず、これからの残りの中学校生活、そしてその先の学校でも、忘れられない思い出をたくさんつくることと思う。しかしそれは支えてくれる家族など周りの人、さらに国民が納める税金があって成り立つことだ。そのため、思い出をつくるだけでは終われない。思い出をつくと同時に、助けてくれるたくさんの人たちに恩返しをするような気持ちを持って授業を受け、勉強するようにしたい。

大人になる上で必要な経験をするために保育園、幼稚園、学校などにはあり、だからこそそこに税金が使われる。これからは私が出した私なりの考えを胸に、学校に通うようにしたい。学校に行くのを助けてくれている多くの人たちに、ありがとうの思いを持ち続けよう。